

年頭の挨拶



菊陽町長

後藤 三雄

新年明けましておめでとうございます。
平成21年の新春を迎えるにあたりまして、町民の皆様のご多幸とご健勝を心からお祈り申し上げます。

また、日頃より、町政にお寄せいただきありがとうございますご支援、ご協力に對しまして心から感謝を申し上げます。

わが国の経済情勢は、戦後最長の景気拡大を続けてきましたが、昨年のアメリカ発の経済不況は、全世界に拡大し、わたしたちの日常生活にも波及してきて、先行き不透明な、大変厳しい情勢にあります。

このような中、地域の特性や実情にあわせて、きめ細やかな施策を、自治体の手によって行っていくという、地方分権の流れが加速してきております。

本町におきまして、先人が築いた歴史や文化、豊かな自然に恵まれた資源をうまく生かしながら、その良さを守りつつ、継続的な発展を図って行くために引き続き、道路・下



菊陽町議会議長

吉村 豊明

平成二十一年の新春を迎え、謹んでお慶び申し上げます。

町民の皆さまには、日頃より町議会に対し、あたたかいご理解とご協力をいただき、心から厚くお礼申し上げます。

昨年は、米サブプライム住宅ローン問題に端を発した金融・信用不安が世界経済を揺るがし、さらに企業の多くは、円高の直撃を受け、業績が懸念される中、新年を迎えました。

さて、国際社会は、地球温暖化防止対策、穀物や資材の高騰、テロや核問題など、また、国内においては、食の安全・安心対策、拉致事件や非正規雇用問題などの課題に対し、確固たる姿勢が求められております。

これから先、本格的な少子高齢化社会に伴い、社会保障費の問題や医療・介護サービスの提供などの大きな課題にも直面しております。

これらの課題を克服し、若者が明日に希望を持ち、お年寄りが安心できる国づくりを政府は進めているところではありますが、厳しい状況にあります。

水道等の事業の継続を始め、小中学校耐震対策、子育て支援や、環境問題、協働の仕組みづくりなどを進めていきたいと思っております。

本町の人口は、光の森地区等のインフラ整備が進み、着実に人口が増え続け、昨年7月2日には、3万5千人を突破し、県内34町村の中で最も人口の多い町となりました。また県下で高齢化率が最も低く、一番若い町となり、将来構想より2年程速く目標を達成することとなりました。

こうした中、昨年10月には、広く町民の皆様のご意見やご提案等をいただくため、各小学校区ごとに町民の皆様との懇談会を開催し、意見交換会を行ったところであります。皆様からいただきましたご意見等につきましては、これからの本町の町づくりの参考とさせていただきます。

私の町政運営のキーワードは、「人と緑が輝く安全で安心な住みよい町づくり」であります。

町民の皆様とのパートナーシップによる、活き活きとした協働のまちづくりを進めてまいりますので、町民の皆様のもちづくりに対する、温かいご理解とより一層のご協力とご支援を賜りますようお願い申し上げます、新年の挨拶といたします。

そのような中、本町においては、下水道を始め、生活関連道路の整備、少子化対策や高齢者・障がい者の生きがい対策など、町民の皆様まの生活に直結した施策を積極的に取り組み、活力のある安全で安心なまちづくりの実現を目指しているところであります。

しかしながら、財政上のこともあり、まだ多くの課題が先送りの状況にあります。

特に、原水工業団地に通じる菊陽空港線の延伸は、合志市・大津町と共に一市二町で期成会を立ち上げ、早期着工を熊本県に陳情しているところですが、ご存知のように熊本県も厳しい財政状況の中にあり、近隣地域の交通安全上からも早急な着工を望むものであります。

教育関係では、小中学校の校舎の耐震調査に伴う補強・改修工事、快適な生活環境づくりとして公営住宅の改築工事、その他、農業の担い手や後継者の育成など、本町の取り組みべき課題は山積しております。

議会といたしましても、町民の皆さまの率直な意見を聴きながら、均衡ある町発展のため執行部と力を合わせ、皆さまの生活の安定向上のため、さらに努力して参る所存でありますので、今後とも皆さまのご支援ご協力をよろしくお願い申し上げます。

終わりに、町民の皆さまがこの一年を健康で幸せに過ごせますようにお祈りし、年頭のご挨拶といたします。